

令和7年度海の再生及び環境対策特別委員会管外視察の概要

- 1 視察日程 令和7年10月8日（水）～10月10日（金）〔2泊3日〕
- 2 視察者 海の再生及び環境対策特別委員会委員（14名）
楠本 千秋（委員長）、吉田 孝平（副委員長）、城下 広作、吉永 和世、坂田 孝志
山口 裕、西山 宗孝、竹崎 和虎、荒川 知章、前田 敬介、堤 泰之、幸村 香代子
住永 栄一郎、杉蔦 ミカ
- 3 視察先（1）国立研究開発法人水産研究・教育機構水産技術研究所（岩手県宮古市）
（2）株式会社かまいしDMC、釜石市ゼロカーボンシティ推進室（岩手県釜石市）
（3）宮城県水産技術総合センター（宮城県石巻市）
（4）株式会社青南商事仙台支店（仙台市宮城野区）
（5）震災復興伝承館（宮城県名取市）
- 4 視察目的 海の再生及び環境対策に係る今後の委員会審議の参考とするため、次のとおり、視察を実施しました。
- 5 視察の概要

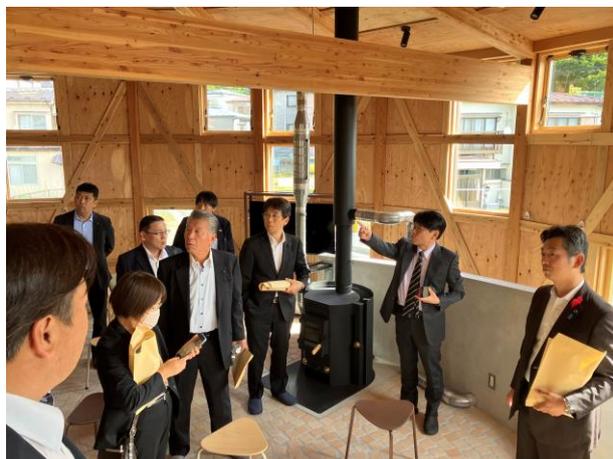
(1) 国立研究開発法人水産研究・教育機構水産技術研究所（岩手県宮古市）

同研究所では、養殖業の収益性や持続性の向上、持続的な水産物生産システムの構築に係る研究等を行っています。今回の視察では、海藻等の生態系、磯焼け、冷水性海産魚の種苗生産や増殖、サーモンの陸上養殖等の説明を受けた後、意見交換を行いました。また、試験研究施設や同施設を維持管理するための設備等を見学しました。



(2) 株式会社かまいしDMC、釜石市ゼロカーボンシティ推進室（岩手県釜石市）

同社の「釜石版サステナブルツーリズムがつなぐ地域脱炭素プロジェクト」は、環境省の脱炭素先行地域に選定されています。今回の視察では、釜石市で盛んな漁業や林業等の生業体験、震災の経験を継承するための防災教育、住民と来訪者との相互交流・学習と受入環境の整備、さらに海に接する地理的環境や鉄鋼業等の地場産業を活かした脱炭素に直接つながる取組内容等の説明を受けた後、意見交換を行いました。



(3) 宮城県水産技術総合センター（宮城県石巻市）

同センターは、宮城県における水産研究・技術の主要機関であり、他箇所には水産加工公開実験棟、種苗生産施設、水産試験場を有しています。今回の視察では、栽培漁業や資源管理型漁業、藻場保全、循環式養殖、海洋環境の変化等に関する課題等の説明を受けた後、意見交換を行いました。また、閉鎖循環式陸上養殖研究棟等を見学しました。



(4) 株式会社青南商事仙台支店（仙台市宮城野区）

同社は、鉄・非鉄、自動車、容器包装等のリサイクル事業等を手掛けており、青森県弘前市の本社はじめ、東北地方6県に計23支店・工場を有しています。今回の視察では、仙台支店の太陽光パネルのリサイクル設備を見学しながら、東北エリアにおける太陽光パネルのリサイクルの現状やリサイクル処理における実務面の課題等の説明を受けた後、意見交換を行いました。



(5) 震災復興伝承館（宮城県名取市）

同館は、東日本大震災の教訓を後世に伝承し、震災を風化させることなく、危機管理や防災の意識を醸成することを目的として整備された施設です。今回の視察では、展示物や映像も含め、担当者から震災当時の被災状況や避難に関する課題について説明を受けた後、意見交換を行いました。

